

大分県グローバル人材育成推進プラン2026

令和8年3月
大分県教育委員会

目 次

I	はじめに	1
II	「大分県グローバル人材育成推進プラン2026」策定の経緯	2
III	「大分県グローバル人材育成推進プラン第3ステージ」について	
1	取組内容	3
2	成果と課題	19
IV	今後の大分県グローバル人材育成の方向性について	
1	基本方針	23
2	重点取組	23
3	目標指標	24
4	取組の方向性	25

.....

参考資料

- 「大分県グローバル人材育成推進プラン2026」策定会議について

I はじめに

現在、私たちは、生成AIをはじめとする急激な技術革新や、国際情勢の変容など、社会のあり方自体が問い直される大きな転換期の中にいます。このような予測困難な時代において、若者たちには、自らの人生を主体的に切り拓き、多様な人々と共生・協働しながら、よりよい社会のつくり手になることや、地球規模での課題解決に貢献していくことが期待されます。その意味でも、多様性を認め広く柔軟な見方・考え方をもったグローバル人材の育成は不可欠です。

本県では、2014年に「グローバル人材育成推進プラン」を策定して以来、10年余にわたり「5つの力の総合力」を掲げ、着実に歩みを進めてきました。これまで、立命館アジア太平洋大学（APU）など県内大学やスタンフォード大学といった国内外の高度な教育資源を最大限に活用し、世界水準の思考に触れる機会を創出してきました。「グローバルリーダー育成塾」には、全県下からこれまで延べ12,000人を超える生徒が参加し、学校や学年の枠を超え、闊達な意見交換や交流が進められました。当プラン第3ステージまでの実践を通じ、各種活動に参加した生徒の感想からは「大分から世界を変える」という高い志と挑戦意欲、課題解決に向けた当事者意識の芽生えが感じられます。

今回策定する「グローバル人材育成推進プラン2026」は、これまでの本県の成果を礎としつつ、今後10年を見据えた新たなグローバル教育の指針として提示したものであり、ポイントは以下の3点に集約されます。

第一に、「小中高の学びの体系的な接続」です。小学校・中学校での英語授業に加え、「イングリッシュ・デイ・キャンプ」等を通じた好奇心の芽生えを高等学校における「探究」での実践につなげ、英語4技能の向上はもとより、学んだ知識を活かして論理的に考え、場に応じて適切に伝える力を育みます。

第二に、「リアルとデジタルが融合した実践の遍在化」です。ICTを駆使した「オンライン・スピーキング・レッスン」、「AI英語学習アプリ」、海外校とのWeb会議といったツールの活用を日常化する一方で、訪日旅行団との交流や、海外に出向き現地の高校生との交流機会を拡充するなどの人的交流を通して、多様な価値観の中で協働する力を養います。

第三に、「郷土に根ざしたアイデンティティの確立」です。地域と連携した郷土理解につながる学習を通じ、大分の魅力を再発見し、それを国内外に発信・提言する中で、異なる文化や価値観に誠実に向き合い、新たな価値を共創できる見方・考え方を育みます。

次代を生きる若者たちには、本県で培った学びを糧に、「大分から世界、世界から大分」といった活気あふれる往来や、その中で、人やアイデアが自由に行き交う循環を創出してほしいと願っています。そして、その循環の中で、一人ひとりが社会の諸課題に向き合い、新たな価値の創造に果敢に挑戦していくことを期待し、本プランが、若者の挑戦を支える指針となることを願っています。

本プランの策定にあたっては、令和7年8月より、プラン検討委員会を立ち上げ、様々な知見、ご意見をいただきました。多大なるご協力を賜りました関係各位に深く感謝申し上げます。本プラン策定後、具体的な取組を実施していく際にも、ひきつづき、関係各所からのご指導、ご意見を賜りながら、次代を担うグローバル人材の育成に取り組んでまいります。

Ⅱ 「大分県グローバル人材育成推進プラン2026」策定の経緯

平成26年度 大分県グローバル人材育成推進プランの策定

県教育委員会では、平成26年5月「大分県グローバル人材育成推進会議」を設置し、本県におけるグローバル人材の資質・能力の定義について審議。この会議での意見やアンケート結果等を踏まえ、同年10月「大分県グローバル人材育成推進プラン」を策定。これからのグローバル社会を生きる本県の子どもたちが、世界に挑戦し多様な価値観を持った人々と協働し、未来を切り拓く上で、以下の「5つの力の総合力」が必要であると整理。

大分県が目指すグローバル人材の資質・能力

- 1 挑戦意欲と責任感・使命感
- 2 多様性を受け入れ協働する力
- 3 大分県や日本への深い理解
- 4 知識・教養に基づき、論理的に考え伝える力
- 5 英語力（語学力）

平成27年度～平成29年度 第1ステージの実践（3年間）

「5つの力の総合力」を育成するために取り組むべき施策を策定。従来の国際理解教育に加え、グローバルリーダーの育成や留学支援、英語力向上の取組等を総括的に推進。「留学フェア」や「グローバルリーダー育成塾」など新たな取組を開始。

平成30年度～令和2年度 第2ステージの実践（3年間）

基本方針を「『5つの力の総合力』育成の継続と充実」とし、第1ステージの成果と課題を踏まえつつ、施策方針を明確化。特に国際的視野の涵養や継続的な国際交流の充実、英語発信力の強化を図り、「スタンフォード大学遠隔講座」や「オンライン・スピーキング・レッスン」など新たな取組を開始。

令和3年度～令和6年度 プラン第3ステージの実践（4年間）

基本方針を「日本に居ながらにしてリアル、バーチャル問わず世界とつながる機会の拡充」とし、教育イノベーションを支える施策枠組みの構築と体系整備の実践。特に挑戦意欲等を喚起する取組の拡大と小中高を通じた英語4技能の強化を図り、「*グローバル活動サポートシステム」や「英語4技能テスト」など新たな取組を開始。

*グローバル活動サポートシステム

オンライン・グローバル・キャンパスとグローバル・ラーニング・ハイスクールを統合した事業

※令和7年度は「第3ステージ」を延長

Ⅲ 「大分県グローバル人材育成推進プラン第3ステージ」について

1 取組内容

1 挑戦意欲等を喚起する取組

(1) グローバルリーダー育成塾

【経 緯】平成28年度 ～ 【目 的】世界に挑戦する気概を持つ人材の育成

【主 催】大分県教育委員会 【対 象】県内の高校1、2年生 希望者

【日 程】5月～12月（年4回） 【場 所】大分県教育センター

【内 容】

- ・各回の構成は ①世界で活躍する講師による基調講演 ②留学生等を交えた協議・発表
- ・第1回の開講式以降「世界の課題解決に向けて私ができること」をテーマに参加者間で協議
- ・第4回の「高校生サミット」において、国連／大学関係者・起業家等に「グローバルリーダー育成塾生としての私の提言」を発表
- ・開講式において大分県知事による講評

【実績1】4年間で12名の講師が登壇（所属・役職は講演時のもの）

[講師一覧]

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
第1回	大阪市立大学大学院 准教授・斎藤幸平 氏	(株)HASUNA 代表取締役・白木夏子 氏	ボーダレス・ブルキナファソ 代表取締役社長・原口瑛子 氏	一般社団法人エシカル協会 代表理事・末吉里花氏
第2回	(株)ジーンクエスト 代表取締役・高橋祥子 氏	(株)エコロジー 代表取締役・葦刈晟矢 氏	(株)doq 創業者・作野善教 氏	(株)ハチドリソーラー 代表取締役・池田将太氏
第3回	(株)ユーグレナ 代表取締役・出雲充 氏	HI 合同会社 代表・平原依文 氏	認定NPO法人 e-Education 代表理事・三輪 開人 氏	京都精華大学大学院教授 ウスビ・サコ 氏
第4回	(株)マザーハウス 代表取締役・山口絵理子氏	認定NPO法人 e-Education 代表理事・三輪 開人 氏	ボーダレス・ブルキナファソ 代表取締役社長・原口瑛子 氏	国際連合人間居住計画福岡本部 本部長補佐官・星野幸代 氏

【実績2】4年間で8,579名の生徒が参加

[人 数]

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
第1回	617名	646名	652名	803名
第2回	417名	497名	591名	812名
第3回	442名	412名	533名	652名
第4回	395名	290名	383名	437名
参加者	1,871名	1,845名	2,159名	2,704名

【実績3】4年間で延べ270名の留学生等が参加

[人 数]

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
留学生等参加者	0名	121名	116名	33名

【実績4】3年間で13校の高校生が課題研究の成果を発表

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
①	久住高原農業高校（農業） 「日本一の産地を守り将来を創りたい！私たちの竹田市サフランプロジェクト～「竹田サフラン」における収穫時期の前進化と球根の肥大化に関する研究～」	大分東高校（農業） 「農業DXへの挑戦～AIディープラーニングによるイチゴの品質判定～」	大分工業高校 「飛ぶ盲導犬」
②	日田高校（SSH） 「多肉植物の栄養生殖」	津久見高校（工業）「津久見市は津高生が守る～フロートスイッチを利用した『災害検知型雨量計』～」	中津南高等学校耶馬溪校（家庭） 「much Pragmatic Information～高齢者の困りと向き合って～」
③	大分商業高校（商業） 「食品ロスさせない連携～規格外トマトを活用した商品開発～」	安心院高校（商業） 「商業の学びを生かした課題解決に向けた諸活動～高校生の私たちが地域のためにできること～」	三重総合高校（自然科学） 「豊後大野市の地質と生物多様性」
④	国東高校（工業） 「七島蘭を使ったコースター織機の制作と地域貢献」	宇佐高校（アイデアコンテスト） 「QOL向上バッテリー～持続可能な勉強サイクル」	久住高原農業高校（農業） 「秘められた花「サフラン」の赤い糸がつなぐ120年の歴史を200年へ～高齢過疎地域に変革をもたらし、日本農業の未来に繋げる国産サフラン革命～」
⑤		大分上野丘高校（GS）「The Economic Impact of Tourism in Oita wit BRT」	

【実績5】参加者の平均満足度97%以上（令和6年度実績）

[感想]

- ・失敗が今後の成長になにより大切であること、そのためには何事も挑戦し経験を積むことが必要であると感じた。
- ・自分とは違う価値観や経験を持つ方の話を聞くことの重要性を理解した。
- ・事前課題を作る際どうしたら人にわかりやすく伝えられるのか、また、与えられた時間内に簡潔に説明するためにどうするかなど、積極的に考えることができた。
- ・英語で自分の気持ちを伝えることの大変さを改めて実感した。さらに英語力を磨いてよりグローバルな人材になれるよう努力したい。

1 挑戦意欲等を喚起する取組

(2) スタンフォード大学遠隔講座 “Stanford e-in Oita”

【経緯】令和元年度～ 【目的】英語で世界と渡り合える人材の育成

【主催】大分県教育委員会・スタンフォード大学

【対象】県内の高校1、2年生30名程度

【日程】9月～3月（年10回：土曜日の10時～11時半）

【場所】受講生の自宅等（オンライン参加）

【内容】

- ・大分県教育委員会とスタンフォード大学が共同で提供する同時双方向型オンラインプログラム
- ・各回の構成は 事前課題：スタンフォード大学から配信される動画の視聴及び文献の閲読
当日：スタンフォード大学専任講師と各回ゲストスピーカー（現地起業家等）による講義
事後課題：課題レポートの提出およびオンライン掲示板でのディスカッション
- 各年度最終回講座終了後、受講生は「社会の課題解決に向けて私ができること（SDGsを参考に各受講生が設定）」をテーマに1人5分程度でプレゼンテーション
- ・講座への参加取組状況、課題レポート、ディスカッションへの貢献度、最終プレゼンテーションを基に、スタンフォード大学が成績優秀者2名を決定
- ・成績優秀者2名はスタンフォード大学で行われる表彰式に出席
- ・グローバルリーダー育成塾において、開講式・閉講式（成果発表）を実施



【実績1】スタンフォード大学専任講師及び現地起業家等による充実した講義

	講義内容及びゲスト講師（所属・役職は講演時のもの）
共通	「プレゼンテーションの技術」、「SDGsと地方創生」、「日系アメリカ人の歴史」 スタンフォード大学国際多文化教育プログラム インストラクター Kasumi Yamashita 氏
令和 3年度	「日系アメリカ人の歴史」パナマホテル オーナー / 社会起業家 Jan Johnson 氏 「芸術と文化」 日本人アーティスト Tara Tamaribuchi 氏 「シリコンバレーと起業家精神」 Spira 共同創業者 Nik Loannou 氏 「シリコンバレーと起業家精神」 バイオリニスト/ Smilee Entertainment 社 CEO 廣津留 すみれ 氏
令和 4年度	「日系アメリカ人とジャーナリズム」 日系アメリカ人ニュースキャスター Lori Matsukawa 氏 「農業と食文化」農園経営者 Lon Inaba 氏 「日米をつなぐ外交のキャリア」 外交官/在シアトル日本国総領事館上級領事 Maki Kawamura 氏

令和 5年度	「日系アメリカ人の歴史と起業家精神」 パナマホテル オーナー / 社会起業家 Jan Johnson 氏
	「外交と持続可能な農業」 外務省 在シアトル日本国総領事館 領事 本田 知之 氏
	「仏教と持続可能な食文化」 シアトル高野山住職 今中 太定 氏
	「シリコンバレーと起業家精神」 D-COMPASS 起業家 石川 峻平 氏
令和 6年度	「日系アメリカ人の歴史と起業家精神」 パナマホテル オーナー / 社会起業家 Jan Johnson 氏
	「シリコンバレーと起業家精神」 社会起業家 Julie Wurfel 氏
	「起業家精神とリーダーシップ」 スタンフォード大学 客室研究員 丸山 泰史 氏
	「持続可能な食文化と起業家精神」 UNICEF Miho Walsh 氏

【実績2】 現地表彰式出席

成績優秀者2名は、スタンフォード大学で行われる表彰式に参加する。他県プログラム成績優秀者や、スタンフォード大学のほかのインストラクターとの協議や交流も行われ、貴重な経験を得ることができる。

【実績3】 高い学習効果

[感想]

- ・ 英語を通してさまざまな歴史、環境や宗教など興味のある分野について知ることができ、とても濃い時間を過ごすことができた。
- ・ 英語力の向上とともに、世界に対して何ができるのか、考えるきっかけになるので、英語が好きな人はもちろん、苦手意識がある人でもぜひ受講して欲しい素敵な講座だった。

等

1 挑戦意欲等を喚起する取組

(3) オンライン・グローバル・キャンパス

【経 緯】 令和3～5年度 【目 的】 バーチャル留学を体験する機会の提供

【主 催】 大分県教育委員会・立命館アジア太平洋大学

【対 象】 県内の高校1、2年生30名程度

【日 程】 10月～3月（年10回：土曜日の10時～11時半）

【場 所】 受講生の自宅または在籍校（オンライン参加）

【内 容】

- ・大分県教育委員会と立命館アジア太平洋大学が共同で提供する同時双方向型オンラインプログラム
- ・各回の構成は ①立命館アジア太平洋大学教員による講義 ②留学生を交えた協議・発表 ③各講義後に課される課題レポート（留学生による添削指導付）
- ・最終回（第10回）講座において、受講生は「社会の課題解決に向けて私ができること（SDGsを参考に各受講生が設定）」をテーマに1人5分程度でプレゼンテーション
- ・課題レポート、ディスカッションへの貢献度、最終プレゼンテーションを基に、立命館アジア太平洋大学が成績優秀者2名を決定
- ・グローバルリーダー育成塾において、開講式・閉講式（成果発表）を実施

【実績1】立命館アジア太平洋大学教員による充実した講義

[講師一覧]

令和4年度（所属・役職は講演時のもの）	
立命館アジア太平洋大学 教育開発学修支援センター 教授・平井 達也 氏	「Teamwork and Global Leadership」
立命館アジア太平洋大学 アジア太平洋学部 助教・BOUKAMBA Kimo Hermann 氏	「Tourism」
立命館アジア太平洋大学 アジア太平洋学部 准教授・松尾 雄司 氏	「Climate Change」
立命館アジア太平洋大学 国際経営学部 教授・李 根熙 (LEE Geunhee) 氏	「Responsible Consumption and Production」
立命館アジア太平洋大学 国際経営学部 准教授・YANG Jeongwoo 氏	「An Introduction to Business Management」
立命館アジア太平洋大学 アジア太平洋学部 助教・平野 実晴 氏	「International Law and its Impact on our Everyday Life」
立命館アジア太平洋大学 アジア太平洋学部 教授・山下 博美 氏	「Various environment and the links with our lives」

【実績2】2年間で60名の生徒が修了

[人 数]

年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
修了者数	27名（14校）	33名（16校）	29名（10校）

※修了者＝大分県教育委員会・立命館アジア太平洋大学が定める基準を満たした生徒

1 挑戦意欲等を喚起する取組

(4) クロスカルチャープログラム・オンキャンパス

【経 緯】令和6年度～アフターコロナによる対面での講座を提供

【目 的】生徒が日本に居ながらにして世界とつながる機会の充実

【主 催】大分県教育委員会・立命館アジア太平洋大学

【対 象】県内の高校1、2年生30名

【日 程】10月～1月（年4回：土曜日の10時～11時半）

【場 所】受講生の自宅等（オンライン参加）、立命館アジア太平洋大学（1泊2日宿泊研修）

【内 容】

- ・大分県教育委員会と立命館アジア太平洋大学が共同で提供する異文化コミュニケーションスキル育成プログラム
- ・各回の構成は ①立命館アジア太平洋大学教員による講義 ②留学生を交えた協議・発表 ③1泊2日の探究キャンプ ④グループ別のプレゼンテーション
- ・ディスカッションへの貢献度、最終プレゼンテーションを基に、立命館アジア太平洋大学が最優秀グループを決定
- ・グローバルリーダー育成塾において、開講式・閉講式（成果発表）を実施



【実績1】地域を舞台としたフィールドワーク

令和6年度実施内容及び講師	
1 日 目	鉄輪でのフィールドワーク 立命館アジア太平洋大学 サステナビリティ観光学部 教授・ VAFADARI M. Kazem 氏
2 日 目	フィールドワークまとめ 立命館アジア太平洋大学 サステナビリティ観光学部 教授・ VAFADARI M. Kazem 氏 チームプレゼンテーション

【実績2】高い学習効果

[感 想]

- ・深い視点から街を考えることが出来、新鮮で楽しかった。また、大学の授業の感覚がわかった。寮生活を体験できたことも、自分の進路にとっても参考になった。
- ・今回のフィールドワークを通して観光地を発信者側の点から分析し、自分の新しいグローバルな視点を獲得することができたと感じた。また、このように英語を一日中使うという体験をしたことがなかったので、非常に楽しかった。等
- ・自分が住む地域の文化や歴史など、外国人に説明できるよう、更に知識を増やしたい。等

1 挑戦意欲等を喚起する取組

(5) 留学フェア

- 【経緯】平成27年度～ 【目的】留学意欲の喚起と留学情報の提供
 【主催】大分県教育委員会 【対象】県内の中高生等100名程度
 【日程】6月・10月(年2回) 【場所】大分県教育センター等
 【内容】
 ①世界で活躍する講師による基調講演 ②県内高校生留学経験者による体験発表
 ③海外大学卒業者等との意見交換会等 ④留学支援団体による個別相談会



【実績1】4年間で8名の講師が登場 (所属・役職は講演時のもの) [講師一覧]

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
第1回	一橋大学名誉教授 石倉 洋子 氏	日本通訳サービス代表 同時通訳者・関谷英里子氏	宇宙航空研究開発機構(JAXA) 宇宙教育センター長 北川 智子 氏	ボーダレス・ブルキナファ ソ 代表取締役社長 原口 瑛子 氏
第2回	NPO 法人クロスフィールズ 共同創業者 代表理事・小沼大地 氏	(株)留学ジャーナル 代表取締役 副社長 加藤ゆかり 氏	バイオリニスト 廣津留 すみれ 氏	World Road CEO 代表 市川 太一 氏

【実績2】4年間で延べ696名の生徒・教員・保護者等が参加 [人数]

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度
第1回	80名	118名	107名	115名
第2回	102名	45名	86名	43名
参加者	182名	163名	193名	158名

【実績3】参加者の平均満足度98%以上(令和6年度実績) [感想]

- ・留学することで英語だけでなく、多様性を学べることや自分自身の志を実現するためのモチベーションにつながる事がわかった。
- ・大分の魅力について考えさせられることがあった。五感でその国について感じることは、実際に行かないと体験出来ないと思うので、私も経験してみたいと思った。
- ・同じ年代の人の留学経験などを聞き、挑戦することはとても楽しそうだと思った。色々な知識を増やす良い機会になった。

【実績4】 3年間で県内の高校生68名が留学支援金を活用

[人 数]

	支援金額・枠	令和4年度	令和5年度	令和6年度	合 計
長期留学	30万円×5名	5名	4名	4名	13名
個人短期留学	10万円×20名	5名	18名	17名	40名
団体短期留学	6万円×20名	15名	0名	0名	15名
留学者数		25名	22名	21名	68名

令和3年度については、コロナの影響により実績なし。

※長期留学＝3か月以上 ※短期留学＝2週間以上3か月未満

○R4の留学先

長期：アメリカ/2名、ニュージーランド/2名、フィンランド/1名

短期：カナダ/1名、オーストラリア/2名、マレーシア/2名、ニュージーランド/15名

○R5の留学先

長期：アメリカ/2名、カナダ/1名、メキシコ/1名

短期：カナダ/14名、オーストラリア/2名、タイ/1名、台湾/1名

○R6の留学先

長期：アメリカ/1名、カナダ/1名、イタリア/1名、アイスランド/1名

短期：アメリカ/1名、オーストラリア/1名、イギリス/2名、カナダ/7名

シンガポール/1名、ニュージーランド/1名、フィリピン/3名

フランス/1名、マルタ/1名

【実績5】 3年間で県内の県立高校生40名が海外留学

[人 数]

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	合 計
長期留学	4名	5名	9名	18名
短期留学	0名	7名	15名	22名
留学者	4名	12名	24名	40名

2 多様な価値観に触れることができる環境の創出

(1) イングリッシュ・デイ・キャンプ

【経 緯】平成30年度 ～

【目 的】多様な価値観に触れることができる環境の創出 【主 催】大分県教育委員会

【対 象】県内の小学5、6年生50名程度（希望者）
県内の中学1、2年生50名程度（希望者）

【日 程】8月（小学生対象1回・中学生対象1回） 【場 所】大分県教育センター等

【内 容】 ①ALTとの英語を使ったコミュニケーション活動
②「大分県の魅力を世界に発信」等をテーマとした英語プレゼンテーション



【実績1】3年間で延べ344名の児童生徒が参加 [人 数]

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	合 計
小学生	76名	68名	63名	207名
中学生	46名	35名	56名	137名
参加者	122名	103名	119名	344名

※令和3年度はコロナの影響により中止

【実績2】3年間で延べ62名のALTが参加 [人 数]

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	合 計
ALT 参加者	21名	20名	21名	62名

【実績3】高い学習効果 [感 想]

- ・英語を通して、他の国の人と楽しく交流できるということが改めて大切だということを感じました。
- ・これほど長くホンモノの外国人とふれあったことは、ほとんど初めてなので、ホンモノの英語を聞き慣れた感じがします。等

《英語を使うことに対する達成度（参加者平均、10点満点）》（令和6年度実績）

Active	積極的に活動に参加することができた	8.8点
Listen	英語をしっかりと聞くことができた	8.9点
Talk	英語をたくさん話すことができた	8.6点

2 多様な価値観に触れることができる環境の創出

(2) グローバル活動サポートシステム

【経 緯】 令和3年度 ～

【目 的】 生徒が学校の教育活動で“リアル・バーチャル”を問わず世界とつながる機会の充実

【主 催】 大分県教育委員会 【対 象】 実施校の教室等

【日 程】 5月～2月 【場 所】 学校

【内 容】

県立高校に以下メニューを提供：

○国際交流サポーターとの交流（オンライン交流含む）

ALTや県内大学に所属する海外留学生を国際交流サポーターとして県内高校に派遣・交流

○オンライン意見交換会の開催

県内高校と海外高校をオンラインで接続し、相互の学校・郷土紹介やSDGsに関する意見交換会等を実施

○訪日教育旅行団等の受入

県内高校が海外からの訪日教育旅行団等の教員・生徒を受け入れ、授業・部活動体験、文化交流、意見交換会等を実施



【実績1】 4年間で県立高校延べ43校が国際交流サポーターとの交流を実施 [校数・人数]

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	合 計
実施校数	14校	11校	9校	9校	43校
国際交流 サポーター	172名	133名	197名	202名	704名

【実績2】 4年間で県立高校5校が4か国・地域の海外高校4校とWeb会議を実施 [校 数]

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	合 計
海外高校	1校	1校	4校	1校	7校

【実績3】 4年間で県立高校14校が9か国・地域から29校546名の教員・生徒を受入

[人 数]

	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	合 計
訪日教育 旅行団等	0名 (0校)	15名 (1校)	176名 (8校)	355名 (22校)	546名 (29校)

※主な受入先：台湾、アメリカ、韓国、ベトナム、ニュージーランド、インドネシア、タイ
イギリス

<<参考 1 : 姉妹校等締結校 (県立高校)>>

学校名	海外姉妹校等	国・地域
別府翔青高校	ウェスタンハイツ・ハイスクール	ニュージーランド
大分舞鶴高校	ロブリー科学高校	タイ
	マウントアルバートグラマー校	ニュージーランド
大分商業高校	木浦女子商業高校	韓国
由布高校	嶺西高校	韓国
	小港高級中学校	台湾
国東高校	リチャード・ランダー・スクール	イギリス
情報科学高校	ソウル工業高校	韓国

<<参考 2 : 海外修学旅行実施校数 (県立高校)>>

	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	合 計
実施高校	0 校	2 校	4 校	6 校

※主な旅行先：シンガポール、ベトナム、ニュージーランド

<<参考 3 : 海外研修実施校数 (県立高校)>>

	令和 4 年度	令和 5 年度	令和 6 年度	合 計
実施高校	0 校	3 校	3 校	6 校

※主な研修先：台湾、タイ、ベトナム、韓国、シンガポール

<<参考 4 : 訪日教育旅行に伴う学校交流等受入実績 (県立高校)>>

年 度	訪問校数 団体数	訪問人数	訪問生徒数	訪問教員数	交流内容
令和 4 年度	1	1 5	1 3	2	生徒交流
令和 5 年度	8	1 6 1	1 3 9	2 2	生徒交流 授業交流
令和 6 年度	2 2	3 5 5	2 8 8	6 7	生徒交流 授業交流

※主な訪日国：台湾、タイ、ベトナム、イギリス、ニュージーランド、アメリカ、
韓国、ベトナム

(3) 国際的教育プログラムの研究

【概 要】

- 県内高校のグローバル教育の充実
 - －英語教育や総合的な探究の時間に活かすため、国際バカロレアの指導について研究
 - －国際交流等や高大接続の意識改革
 - －「指導教諭をリーダーとした授業改善の推進」事業で国際バカロレアが目指す探究的な学びについて学び、所属校での英語指導への活用について協議・検討
- プログラムコーディネーターの育成
 - －自校の教育活動にグローバルで実践的な探究の学びを推進できる教員の養成

※国際バカロレア

- ・本部をジュネーブに置く国際バカロレア機構が開発した国際的教育プログラム
(設置：1968年)
- ・カリキュラムを履修し、最終試験に合格すると、国際的に認められる大学入学資格の取得が可能(国内外1800以上の大学入学資格に対応)
 - ・公立のDP(高校生向けプログラム)認定校は、全国12校(札幌市、青森県、宮城県、東京都、神奈川県、山梨県、滋賀県、大阪府、広島県、鳥取県、高知県、さいたま市)
 - ・認定要件は ①ICT等の環境整備及び申請費・年会費等の支払い ②学習指導要領と国際バカロレアの基準に沿ったカリキュラムの編成と実施 ③国際バカロレア教員の資格を持つ人材の確保 等
 - ・授業は教科を問わず原則英語で行われ、教科間連携や実社会とのつながり等を重視した課題解決型の探究学習



【実績】プログラムコーディネーター6名の育成を開始

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
対象	英語科教員2名	英語科教員2名	英語科教員2名
内容	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国際バカロレア認定校視察 <ul style="list-style-type: none"> ・神奈川県立横浜国際高等学校 ○ 国際バカロレアの手法を取り入れた教材研究及び授業研究会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国際バカロレア認定校視察 <ul style="list-style-type: none"> ・さいたま市立大宮国際中等教育学校 ・東京学芸大学附属国際中等教育学校 ○ 国際バカロレアの手法を取り入れた教材研究及び授業研究会の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 国際バカロレア認定校視察 <ul style="list-style-type: none"> ・滋賀県立虎姫高等学校 ・大阪府立水都国際高等学校 ○ 国際バカロレアの手法を取り入れた教材研究及び授業研究会の実施

3 伝統や文化に関する教育の充実

(1) 地域と連携した郷土学習

【概要】

児童生徒が郷土について学習する機会を確保するため、以下取組等を実施：

(1) 大分っ子「未来創造プロジェクト」（義務教育課）

県内の中学校6校が、大分の地域・社会や産業界と連携して、地域のよさを生かした「PR活動、ものづくり、商品開発等」を行う探究的・協働的学習

(2) ミュージアムを活用した子どもの感性育成事業（義務教育課）

本物の芸術と向き合いながら充実した鑑賞活動を行うことを通した、児童の豊かな感性を育む機会

(3) 一人一台端末を活用した小・中学生プレゼンテーションコンテスト（教育DX推進課）

児童生徒の情報活用能力及び教員のICT活用指導力の向上を目的としたコンテスト。大分の地域・社会や産業界と連携して地元地域について研究。

(4) グローバル活動サポートシステム

外国人に対して、児童生徒が郷土や日本についてプレゼンテーションを行う機会

【実績1】2年間で県内の中学校延べ12校で大分の地域・社会や産業界と連携した学習を実施

活動例：地域の活性化のために、製茶会社やグリーンリズム等と連携し、特産品を使った菓子等の開発・販売を行った。また、実践校が集う交流会において「地域社会の一員としてできること」についてディスカッションを行った。

【実績2】3年間で県内の小学校4年生3,098人がミュージアムツアーに参加

活動例：県立美術館において、ガイドスタッフの支援を受けながら、自分なりの見方や感じ方で作品を鑑賞した。友人と感想を伝え合うことで、作品の見方を広げることができた。

【実績3】3年間で県内の小・中学校延べ43校が一人一台端末を活用した小・中学生プレゼンテーションコンテストに参加

テーマ：「大分魅力向上プロジェクト」「大分の魅力を伝え隊」等

【実績4】3年間で延べ10の事業において外国人に対する郷土や日本をテーマとしたプレゼンテーションの機会を提供

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
交流事業	訪日教育旅行団等の受入	訪日教育旅行団等の受入	訪日教育旅行団等の受入
	海外高校とのWeb会議	海外高校とのWeb会議	海外高校とのWeb会議
	グローバル活動サポートシステム	グローバル活動サポートシステム	グローバル活動サポートシステム
	海外修学旅行・研修等	海外修学旅行・研修等	海外修学旅行・研修等
	イングリッシュ・デイ・キャンプ	イングリッシュ・デイ・キャンプ	イングリッシュ・デイ・キャンプ

4 主体的・対話的で深い学びを実現する授業の推進

(1) 新大分スタンダード／県立高等学校授業改善実施要

【概要】

(1) 小・中学校においては、「新大分スタンダード」に基づく授業の徹底、高等学校においては、「県立高等学校授業改善実施要領」に基づく授業改善を推進

(2) 全ての校種において、地域課題やSDGs等をテーマとした課題解決型学習を推進

※新大分スタンダード

- ・「学びに向かう力」と「思考力・判断力・表現力」を育成するワンランク上の授業づくり
- ・「1時間完結型」「板書の構造化」「習熟の程度に応じた指導」「生徒指導の3機能を意識した問題解決的な展開」による授業改善

※県立高等学校授業改善実施要領

- ・目指す授業像の実現に向けた「ワンステップアップのための授業モデル」と「3つのビジョン（方向性）、6つのアクション（方策）」を提示
- ・「授業改善スクールプラン」と「授業改善マイプラン」に基づき、PDCAサイクルを循環

【実績1】全国学力・学習状況調査より（学びに向かう力の育成）

- ・「友人との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり新たな考え方に気付いたりすることができている」と回答する児童生徒の割合が増加

	H26	R3	R4	R5	R6
小	64.4	77.1	78.5	81.2	87.1
中	60.7	78.6	77.9	79.5	87.1

- ・「授業で、課題解決に向けて自分で考え、自分から取り組んだ」と回答する児童生徒の割合が増加

	H30	R3	R4	R5	R6
小	77.0	78.5	78.3	80.1	81.2
中	74.2	79.8	78.6	79.1	80.3

【実績2】令和6年度学習習慣等実態調査

※数値は県立高校（第2学年）

調査項目	令和4年度	令和5年度	令和6年度
授業の内容を理解できていると感じている生徒の割合	81.0%	83.1%	80.9%

【実績3】県立高校が「総合的な探究の時間」において、地域や社会の課題解決に向けた探究活動を実施。

【実績4】県主催事業においてSDGsを活用した課題解決型のプログラムを導入

(例) グローバルリーダー育成塾、スタンフォード大学遠隔講座、クロスカルチャープログラム・オンキャンパス、オンライン・スピーキング・レッスン 等

5 小中高を通じた英語4技能の強化

(1) 大分県英語教育改善推進プラン

【概要】

英語教育改善推進プランに基づき、小中高を通じた施策を展開

○小学校 子どもたちのコミュニケーション力を育む「教員の確かな英語指導力の育成」

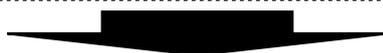
- ・ 小学校英語指導力向上事業の継続
 - －学習到達目標の作成／民間テストの活用と授業研究／国際留学生との交流
- ・ 未来を創る授業力向上協議会
- ・ 小学校英語専科教員協議会

○中学校 生徒の英語力の向上と教員の確かな英語指導力の育成

- ・ 中学校英語指導力向上事業の拡充
 - －指導教諭の活用／動画作成／民間テストの活用
- ・ 小中連携の推進
 - －小学校英語教育推進校の公開授業を中学校教員が参加

○高校 生徒の英語4技能5領域を育成するための指導方法と評価方法の改善と構築

- ・ 民間テストを活用した英語指導力の向上と評価方法の改善
- ・ 教員研修（パフォーマンステストの理論と実践の理解の促進）
- ・ 指導と評価の一体化を目指した実践事例の共有および活用促進
- ・ 言語活動の充実と評価問題の改善
- ・ 英語科の「探究的な学び」の構築



【実績1】求められる英語力を有する生徒の割合

※国の目標：60%(高等学校・中学校)

高等学校 (CEFR A2)	英検準2級以上を取得している生徒及び 相当程度の英語力を有すると思われる生徒	<R3> 46.5%	<R4> 45.9%	<R5> 49.9%	<R6> 49.5%
中学校 (CEFR A1)	英検3級以上を取得している生徒及び 相当程度の英語力を有すると思われる生徒	<R3> 38.7%	<R4> 44.3%	<R5> 45.0%	<R6> 44.0%

【実績2】英語担当教員の英語力

※国の目標：75%(高等学校)、50%(中学校)

高等学校 (CEFR B2)	英検準1級相当以上を取得している教員	<R3> 84.5%	<R4> 85.0%	<R5> 88.1%	<R6> 85.4%
中学校 (CEFR B2)	英検準1級相当以上を取得している教員	<R3> 41.5%	<R4> 45.0%	<R5> 44.5%	<R6> 50.5%

5 小中高を通じた英語4技能の強化

(2) オンライン・スピーキング・レッスン

- 【経 緯】令和元年度 ～ 【目 的】生徒の英語発信力の強化
【主 催】大分県教育委員会 【対 象】県内の高校生（学校単位）
【日 程】通年（各学校年1回）※R6は年2回も可 【場 所】実施校の教室等
【内 容】

- ・1人1台端末を活用して、ALT最大20名と生徒最大20名をオンラインで同時接続
- ・1対1の双方向型オンライン・スピーキング・レッスン（1人あたり15分程度）を実施
- ・各回の構成は ①授業で学習した内容をテーマとした個別学習 ②オンライン・スピーキング・レッスン（テーマに関する発表やQ & Aなど） ③ALTから送付される個人別の評価シートに基づく振り返り
- ・各校は、県から送付される学校別の評価シートに基づき授業改善を実施
※評価の観点：Attitude, Listening, Pronunciation, Grammar & Vocabulary, Contents



【実績1】3年間で延べ105校で実施の4730名の生徒が受講 [人 数]

	令和4年度	令和5年度	令和6年度
受講者	1600名（39校）	1900名（38校）	1230名（28校）

※令和6年度より希望校での実施。複数回の実施を可能とした。

【実績2】参加者の平均満足度92%以上（令和6年度実績） [感 想]

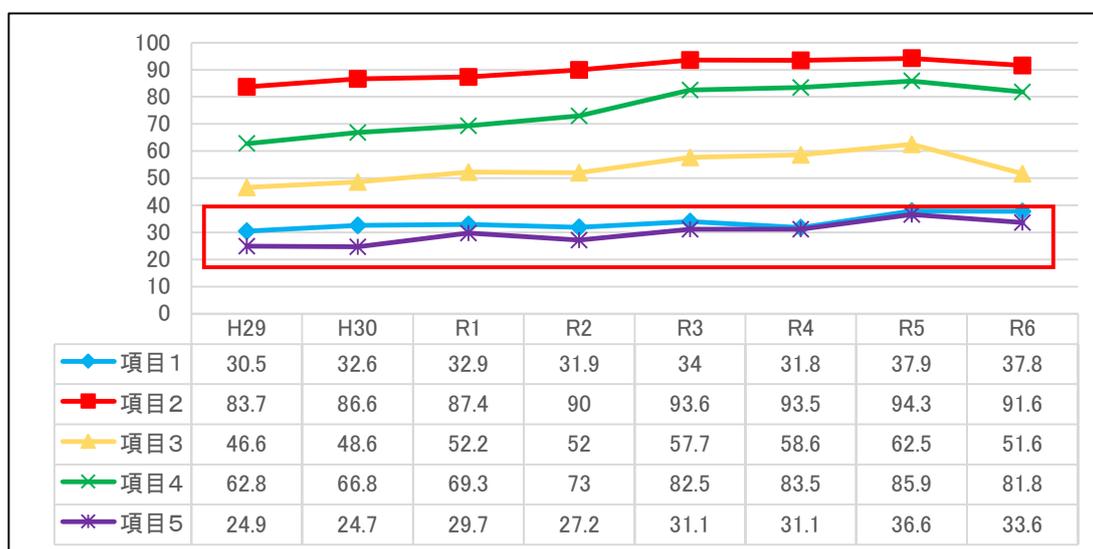
- ・英語で喋るのが本当に楽しかった。外国の方とお話ししたら自分の英語力が足りてないことが改めてわかったので、もっとリスニングとスピーキングを練習してたくさん話したいと思った。
- ・話そうとする姿勢が何より大事だと思った。コミュニケーションは伝えることが大事だから海外に行く機会があった時、話せなくてもどんな手を使ってでも自分の意見や意思を伝える努力をしようと思った。

2 成果と課題

(1) 「5つの総合力」の推移

「大分県グローバル人材育成推進プラン」では、これから生きる子どもたちが世界に挑戦し、多様な価値観を持った人々と協働していく上で、グローバル人材として5つの力の「総合力」の育成が必要であるとし、この5つの力を踏まえ事業を展開してきた。「5つの総合力」は、大分県長期総合計画（「安心・元気・未来創造ビジョン 2024」～新しいおおいたのための共創～）および大分県長期教育計画における指標である。平成29年度から令和6年度までの各項目についての調査結果より、10年間の数値の推移から、成果と課題についてまとめる。

以下は、県内の高校2年生を対象に、5項目に肯定的に回答した生徒の割合である。



質問項目

1	「挑戦意欲と責任感・使命感」 外国へ留学したり、国内外を問わず海外と関わる仕事に就いたりしてみたいと思うか。
2	「多様性を受け入れ協働する力」 自分と異なる意見や価値観をもった人とも協力して、目標に取り組むことができているか。
3	「大分県や日本への深い理解」 外国人に対し、大分や日本のことを、日本語や英語（外国語）で伝えたり説明したりすることができるか。
4	「知識・教養に基づき、論理的に考え伝える力」 学んだ知識を活かして、自分で考え、判断して、分かりやすく伝えることができているか。
5	「英語力（語学力）」 英語を使って、積極的に外国人とコミュニケーションを図ることができるか。

①挑戦意欲と責任感、使命感

(成果) 当事者意識の芽生えと意識改革

「グローバルリーダー育成塾」や「スタンフォード大学遠隔講座」等において、国連関係者や海外での起業家などの講演を聞き、世界で活躍する第一線のロールモデルを知る貴重な機会となった。起業や“世界を変える取組”に対して、“今の自分たちにもできること”であるという意識改革につながった。世界水準の思考や取組に触れることで自己効力感も高まり、「大分からでも世界を変えられる」という高い志と当事者意識を持つ層が着実に形成された。

(課題) 平素の授業に対する取組への波及効果

これら高度なプログラムで得た熱量を平素の授業等の取組に反映させること、講師の経験に感銘を受けた教師が還流報告するなど所属校全体の取組へと波及させることが課題である。参加者が得た刺激を周囲に還元する仕組みの強化や、プログラム終了後も高いモチベーションを維持して実際の進路選択や長期的なキャリア形成に結びつけていくことができるよう、改善を重ねていく。

②多様性を受け入れ協働する力

(成果) 多様な価値観に触れる機会の提供

「クロスカルチャープログラム」や「グローバル活動サポートシステム」などにおいて、APU（立命館アジア太平洋大学）等との連携により、県内にいながら多様な国籍の留学生と協働する機会の創出ができた。さらに、オンラインを活用した海外校との交流や訪日旅行の受け入れによる学校間交流、ALT との日常的な活動を通して、異文化理解につながる体験機会が大幅に増加した。異なる背景を持つ人々と議論する経験によって、多様な価値観を尊重する態度の育成につなげることができた。

(課題) 異文化体験ができる機会のさらなる改善

単なる文化紹介や親善にとどまらず、価値観や意見の違い、批判的思考力を持ちながらディスカッションを行うなど、議論を深める経験に深化させていく必要がある。また、学校の地理的条件や規模に関わらず、すべての生徒が質の高い異文化体験を享受できるよう、デジタル活用を含めた機会の均等化をさらに図っていく。

③大分県や日本への深い理解

(成果) “地元大分”の再発見

地域と連携した郷土学習にとどまらず、学習した内容について国際学生と英語でディスカッションを行ったり、海外の高校生に対して大分の課題や魅力を発信したりする構成をとったことで、大分の理解が深まり、地元の価値を再発見できた。スタンフォード大学遠隔講座等でのサステナビリティの視点を持ちながら大分県の課題解決を提言する活動は、単なる知識習得を超え「世界の中の大分」という広い視野で郷土を捉え直すアイデンティティの醸成にも繋がった。

(課題) 地域の未来を構想し、主体的に参画する意欲の向上

グローバル志向が高まる中、たとえ県外・国外へ流出したとしても、大分県への愛着を持ち続け、大分県に対する意識が児童・生徒の中に生まれるような学習機会の創出が必要である。学習成果を教室内の「提案」で終わらせず、地域の大人や企業を巻き込んで実際にアクションを起こす経験を増やしたり、地域課題解決が魅力的なキャリアになり得ることに気付く機会になるよう、地域人材や地域資源のさらなる活用が求められる。

④知識・教養に基づき、論理的に考え伝える力

(成果) 思考力・判断力を活用しながら、発信する機会の創出

異文化交流や郷土学習、プロジェクト学習等、多様な他者に対して論理的に伝える実践の場を意識的に設定してきた。グローバルリーダー育成塾やオンライン・スピーキング・レッスンにおいては、平素の授業で得た知識・技能を活用し、類似点・相違点に着目して思考し、批判的に物事を捉えて自分の意見を述べ合う機会を提供できた。

(課題) 習得したことや新たな“気づき”を運用する実際のコミュニケーション場面のさらなる創出

既有知識を活かし、論理的に提言する姿が見られるなど高い成果が見られる一方で、県教委主催の特別事業で得られた探究学習の成果や学びを、いかに日常の教育活動へ普及させるかが課題である。「知識に基づき、論理的に考え、相手に伝える」言語活動を通して、児童・生徒にとって豊かな学びのある学習環境を提供できるよう取り組む必要がある。

⑤英語力（語学力）

(成果) 多様な言語活動の実施

小・中学校の「新大分スタンダード」、高校の「授業改善実施要領」を効果的に活用し、汎用的に活用できる知識・技能の習得、得た情報を踏まえて自分の意見との類似や相違について考えながら表現するための思考力・判断力・表現力の育成、自ら課題を発見しかかわり方を選択する主体性の育成等を目指した授業改善が着実に進んだ。「グローバルリーダー育成塾」「クロスカルチャープログラム・オンキャンパス」「イングリッシュ・デイ・キャンプ」「グローバル活動サポートシステム」「オンライン・スピーキング・レッスン」等の事業で、学校での学習活動を通して身に付けた力を運用することができる実践的コミュニケーション場面を提供することができた。

(課題) 指導観の転換（探究的な学びの追求）

教員の指導観をアップデートし、生徒の「思考・判断・表現」を引き出すファシリテーション能力を向上させ、「教える授業」から「学びを創る授業」への転換が必要である。児童・生徒が英語を使って活動する機会を最大化させるために、どのような授業づくりの視点が必要か。教師側の教育観の転換が課題である。

(2) 生徒の英語力の推移

英語教育実施状況調査を活用し、児童・生徒の英語力の育成状況、中学校・高等学校における英語力の推移を継続的に検証し、効果的な英語教育施策の立案および事業展開につなげている。文部科学省が設定した目標値は中学校・高校ともに60%である。中学校は令和15年、高校は令和10年に目標値を達成するよう取組を進めていく。

推移と目標値								
年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R15
中学校	44.3%	45.0%	44.0%	48%	50%	52%	54%	60%
高校	45.9%	49.9%	49.5%	54%	56%	58%	60%	60%

- ・ 文部科学省が実施する「英語教育状況調査」（中学校3年生及び高校3年生対象）。
- ・ 中学校卒業段階で、CEFRのA1レベル（英検3級程度）相当以上を達成した中学生の割合
- ・ 高等学校卒業段階で、CEFRのA2レベル（英検準2級程度）相当以上を達成した高校生の割合

* CEFR：英語をはじめとした外国語の習熟度や運用能力を同一の基準で評価する国際標準

V 今後の大分県グローバル人材育成の方向性について

1 基本方針 → 第3ステージの継続と拡充

第3ステージまでの10年間の成果と課題を分析・検証し、令和8年度以降も引き続き、平成26年「大分県グローバル人材育成推進会議」においてグローバル人材に必要な資質として定めた「①挑戦意欲と責任感・使命感」「②多様性を受け入れ協働する力」「③大分県や日本への深い理解」「④知識・教養に基づき論理的に考え伝える力」「⑤英語力（語学力）」の5つの力の「総合力」の育成を、大分県のグローバル人材育成の柱とする。ただし、AIが社会インフラになる時代や他言語・他文化を背景に持つ人たちと共生・協働する社会の実現を目指す国内外の情勢を踏まえ、時代や社会の要請に合わせた取組の修正と改善を、適宜実施する。

※ 計画の期間は、大分県長期総合計画（安心・元気・未来創造ビジョン2024～新しいおおいのための共創～）に照らし合わせ、令和15年度までの9年間とし、中間年にあたる令和10年度をめどに見直しを行う。

5つの力の「総合力」の育成

- ① 変化に適応する力・未知のものに果敢に挑戦し、粘り強く取り組み続ける力の育成
- ② 多様性を認め合い共生する社会の実現を目指すとともに、異文化の知見を融合し、新たな価値を創出する力の育成
- ③ 大分県や日本の伝統や文化への理解を深め、郷土への誇りと愛着の醸成
- ④ 自ら課題を発見し解決する力を育む探究的な学習の更なる推進
- ⑤ 小中高等学校における英語4技能の総合的な向上とコミュニケーション能力のさらなる向上

2 重点取組

◎英語での探究学習の推進と、英語学習への意欲喚起につながる機会の提供（挑戦意欲）

海外学生・生徒等との英語による意見交流機会の拡充

◎グローバル教育の日常化

学校（小・中・高）で行う国際交流プログラム（海外派遣支援事業、訪日教育旅行による学校間交流等）の促進

◎郷土理解を基盤とする多文化共生意識の涵養

地域人材・地域教材のさらなる活用と多様な価値観を持つ人との交流場面や協働体験機会創出

◎AIの活用を通じた英語授業支援

実践的コミュニケーション場面の最大化

3 目標指標

【指標 1】グローバル人材として活躍するための素地を備えた生徒の割合

大分県が目指すグローバル人材の資質・能力5つの項目中4つ以上の項目に対して、肯定的に回答した生徒の割合（指標は高校2年生のみを対象に集計）。

推移と目標値							
年度	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R15
割合	41.0%	34.7%	34.9%				
目標値		42	42	43%	43%	43%	45%

基準値

1	<p>「挑戦意欲と責任感・使命感」</p> <p>外国へ留学したり、国内外を問わず海外と関わる仕事に就いたりしてみたいと思うか。</p>
2	<p>「多様性を受け入れ協働する力」</p> <p>自分と異なる意見や価値観をもった人とも協力して、目標に取り組むことができているか。</p>
3	<p>「大分県や日本への深い理解」</p> <p>外国人に対し、大分や日本のことを、日本語や英語（外国語）で伝えたり説明したりすることができるか。</p>
4	<p>「知識・教養に基づき、論理的に考え伝える力」</p> <p>学んだ知識を活かして、自分で考え、判断して、分かりやすく伝えることができているか。</p>
5	<p>「英語力（語学力）」</p> <p>英語を使って、積極的に外国人とコミュニケーションを図ることができるか。</p>

【指標 2】生徒の英語力

- ・ 中学校卒業段階で CEFR の A 1 レベル（英検 3 級程度）相当以上を達成した中学生の割合 60%
 - ・ 高等学校卒業段階で CEFR の A 2 レベル（英検準 2 級程度）相当以上を達成した高校生の割合 60%
- * CEFR : 英語をはじめとした外国語の習熟度や運用能力を同一の基準で評価する国際標準

推移と目標値								
年度	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R15
中学校	44.3%	45.0%	44.0%	48%	50%	52%	54%	60%
高校	45.9%	49.9%	49.5%	54%	56%	58%	60%	60%

基準値

4 取組の方向性

① 挑戦意欲と責任感・使命感

変化に適応する力・未知のものに果敢に挑戦し、粘り強く取り組み続ける力の育成

◎「世界と渡り合い、世界を変革する」グローバルリーダーの育成

- ・ 英語等で実施するグローバルシチズンシップ学習の場の充実
- ・ 大分にいながら国際学生との交流を通して疑似留学を体験できる機会の拡充
- ・ 大学等と連携したフィールドワーク、英語による協議等の探究的学習の機会の充実

◎留学・海外派遣支援

- ・ 留学に関する情報の充実
- ・ 留学支援金額の引き上げ等による長期留学の促進
- ・ 海外（大分県とMOUを締結している国・地域等）の学校との現地での学校間交流等で行う機会の拡充

◎海外大学との連携強化

- ・ スタンフォード大学の専任講師と現地起業家等による遠隔講座の充実
- ・ 卒業後の進路の追跡調査等を踏まえた同窓生による発表や交流を実施

◎海外高校との学校間交流の促進

- ・ 台湾や韓国等の高校とのオンラインによる意見交流機会の充実

② 多様性を受け入れ協働する力

多様性を認め合い共生する社会の実現を目指すとともに、異文化の知見を融合し、新たな価値を創出する力の育成

◎各県立学校で実施するグローバル教育の支援

- ・ 各県立学校におけるグローバル教育の充実
- ・ 海外留学生との学習機会の拡充
- ・ 海外学校との交流拡大に向けた支援の充実

◎国際的教育プログラムの研究

- ・ 探究的な学びの充実に向け、先進校における指導法やカリキュラム等の調査・研究

③ 大分県や日本への深い理解

大分県や日本の伝統や文化への理解を深め、郷土への誇りと愛着の醸成

◎地域と連携した郷土学習と、自国や地元の伝統・文化への深い理解

- ・ 外部人材の活用と体験的な学習を通じた郷土学習機会を拡大
- ・ 郷土の伝統や文化等に関する学習成果を国内外の外国人に伝える機会の充実

④ 知識・教養に基づき論理的に考え伝える力

自ら課題を発見し、解決する力を育む探究的な学習の更なる推進

◎授業改善をとおして実現する質の高い探究的な学び

- ・ 教科における探究的な学びの普及による授業改善の推進
- ・ 授業と家庭学習の効果的な連動による児童生徒が主体的な学習を確立
- ・ 社会や世界を題材とし、学びを社会に繋げる学習機会の創出

英語力（語学力）

小中高等学校における英語4技能の総合的な向上とコミュニケーション能力のさらなる向上

◎実践的コミュニケーション場面の日常化

- ・ 教師と生徒、児童・生徒同士が、英語を使ってコミュニケーションを行う機会の最大化
- ・ AI等の活用による時間や場所に制約されないコミュニケーション機会の創出
- ・ 実際のコミュニケーションに直結する、双方向コミュニケーションを行う場面の創出
- ・ ALTとのコミュニケーション場面を活用した英語でやり取りする力の育成

◎小さな“深い学び”体験を通じた学習

- ・ 既習の知識・技能を運用する機会の創出による深い学びの実現
- ・ 学習内容の理解とその活用体験を通じた真正の学び体験の保障と学習意欲の喚起

◎正解のない問いに対し、自らの意志で一步を踏み出す態度の育成

- ・ 課題発見力、課題解決力、自己調整能力、他者と協働し最適解を探る姿勢等の育成

大分県グローバル人材育成推進プラン（第2フェーズ）策定委員会 設置要綱

（設置）

第1条 AIのグローバル化が急速に進む今日において、大分県から世界に通用する人材を育成する上での教育上の課題・今後の取組について協議・検討し、グローバル人材育成推進プラン策定委員会（以下「策定委員会」という。）を設置する。

（所掌事務）

第2条 策定委員会は、次に掲げる事項について検討する。

- （1）グローバル人材に求められる資質・能力
- （2）グローバル人材を育成することの現状・課題・今後の取組について
- （3）グローバル人材育成推進プランの策定について
- （4）その他

（組織）

第3条 策定委員会は、別表に掲げる委員をもって組織する。

- 2 策定委員会には、委員長1名と副委員長1名を置く。
- 3 委員長は、策定委員会の議事その他の会務を総括し、策定委員会を代表する。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代行する。
- 5 委員長及び副委員長は委員の互選により決定する。

（任期）

第4条 委員の任期は、委嘱した日から令和8年3月31日までとする。ただし、委員が欠けた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（会議）

第5条 策定委員会の会議（以下「会議」という。）は、委員長が招集し、委員長が議長となる。

- 2 策定委員会は、委員の過半数が出席しなければ、会議を開くことができない。
- 3 委員長は、必要があると認めるときは、関係者の出席を求めることができる。
- 4 委員は、会議で配布した資料等を、委員長の許可なく公開してはならない。

（庶務）

第6条 策定委員会の庶務は、大分県教育庁高校教育課において処理する。

（補則）

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が策定委員会に諮って別に定める。

附 則

この要綱は、令和7年7月1日から適用する。

「大分県グローバル人材育成推進プラン2026」策定会議について

令和年7月22日に、本県におけるグローバル人材育成に必要な教育上の課題・今後の取組について協議・検討をするために設置。会議のメンバー及び審議の経過は以下のとおり。

< 大分県グローバル人材育成推進プラン2026策定会議委員 >

企業関係者	三和酒類株式会社	代表取締役常務	熊埜御堂 康昭
	株式会社西石油グループ	代表取締役社長	西 貴之
大学関係者	大分大学教育学部	准教授	大谷 由布子
	立命館アジア太平洋大学 言語教育センター	准教授	ベルガー 舞子
市町村教育委員会	別府市教育委員会	教育長	寺岡 悌二

〔教育庁内関係各課〕

教育改革・企画課 文化課 高校教育課 体育保健課 義務教育課

< 審議の経過 >

第1回	8月 4日	第3ステージまでの取組内容、グローバル人材育成に求められる教育的視点、2035年に実現したい子どもの姿、グローバル人材に求められる資質・能力
第2回	10月30日	大分県における「グローバル人材の育成」に求められる資質・能力、2035年に実現したい子どもの姿の実現のための具体的取組
第3回	書面協議	「大分県グローバル人材育成推進プラン2026」について